第２回「私の自慢展」作品 出品申込書

ふりがな 氏　名		組織名	
作品名	書道 ・ 写真 ・ 絵画 ・ 工芸手芸 ※該当の部門に〇をつけてください		
電話番号		生年月日	大正・昭和　　年　　月　　日 ※どちらかに〇
住　所	〒　　ー		

募集要項

1. 目的
退職者の美術作品を通じて、文化的で充実した生活向上を図る。

2. 開催期間および開催場所
(1)美術展
①日　時　2023年2月26日(日)10時～15時(予定)
※滋賀退職者連合第29回総会と同日開催
②場　所　クサツエストピアホテル
(所在地:滋賀県草津市西大路町4−32)
※新型コロナの状況により、連合滋賀ホームページに写真掲載展示に変更する。
(2)審査
滋賀退職者連合三役にて2023年2月に実施
(3)表　彰
①日　程　2023年2月26日(日)
※滋賀退職者連合第29回総会にて表彰
②表　彰
最優秀賞(1本)賞状＋商品券3万円
優秀賞(各部門から数本)賞状＋商品券5千円

3. 作品の応募資格と応募条件
(1)応募資格
滋賀退職者連合加盟組織会員
(2)応募条件
①未発表で自己の創造で制作した作品
②応募は1人1点(複数部門にも出品不可)
③出品時、作品を保護するための梱包・包装すること
④作品の受付・引取期間に作品を搬入・搬出ができること
(3)出品における注意事項
①部門毎に定められた規格に合っていること
②出品・引取にかかる費用はすべて出品者の負担
③作品移動時の不可抗力による破損等について、主催者は一切責任を負わない

4. 作品の受付および返却
(1)受付
①日　時:2023年2月1日(水)～6日(月)
10:00～16:30 ※平日のみ
②場　所:連合滋賀
〒520-0807　滋賀県大津市松本2丁目10-6
③受付場所
直接持ち込み・郵送(郵送の場合は送料出品者負担)
※組織で集約し、組織ごとに一括搬入も可
・持ち込みの場合、事前に事務局まで連絡
・受取の際、預かり証を発行
(返却の際、引き換えに商品を返却)
・郵送の場合、期間内必着で元払いにて発送
(2)返却
①返却日時:2023年3月6日(月)～3月10日(金)
10:00～16:00 ※平日のみ
②返却場所:連合滋賀
※返却日に引き取りができない申し出があった作品については、着払いで郵送する。

5. 問い合わせ先
滋賀退職者連合事務局　TEL:077-523-0500

6. 作品の種類・規格
【書道の部】
形　式:額装、軸装(巻子は不可)
大きさ:梱包時に1辺の最大が100 cm 以内、縦・横・高さの合計が170 cm 以内
題　材:自由
※裏打ちをしっかり施すこと
【写真の部】
種　目:カラー・白黒 単写真 のみ 組写真 は不可
題　材:自由
大きさ:A4 A3 ノビ・四切～半切
※額装またはパネル張り
(額装のガラス・アクリル等の使用不可)
梱包時に1辺の最大が100 cm 以内、縦・横・高さの合計が170 cm 以内
【絵画の部】
種　目:日本画・洋画・版画など平面作品
題　材:自由
形　式:額装または仮装のこと※軸装は不可
大きさ:梱包時に1辺の最大が100 cm 以内、縦・横・高さの合計が170 cm 以内
【工芸手芸の部】
題　目:陶芸、木竹工、七宝、染織、編物、刺繍、パッチワークなど(組作品は不可)
題　材:自由
大きさ:梱包時に1辺の最大が100 cm 以内、縦・横・高さの合計が170 cm 以内
※平面作品は、壁面展示ができるよう吊るための処置を施すこと

第68号 2022. 10. 7
発行所：滋賀退職者連合
発行責任者：増田　勝治
編集責任者：田中　清道
大津市松本２−１０−６
TEL：077−523−0500
FAX：077−523−5600

第１５回グラウンドゴルフ大会
コロナに負けず!! 3年ぶりに開催！

連合滋賀退職者連合第15回グラウンドゴルフ大会を連合滋賀、滋賀県労福協、近畿労働金庫、こくみん共済coop、住宅生協の後援により、9月27日(火)に3年ぶりに竜王町総合運動公園ドラゴンハットにて開催しました。

増田勝治滋賀退職者連合会長から開会の挨拶の後、藤田徳重（NTT 労組退職者の会）実行委員長からルール説明が行われ大会を開始、秋晴れの大変清々しい天気となり、皆さま気持ちよく汗をかきながら笑い絶えずプレーを楽しみ、組織の枠を超えた交流を深めることができました。

結果は、男性の部では岡田恭彦さん(滋賀県退職教職員協議会)、女性の部では加藤ヨリ子さん(UAゼンセンIKI・IKIライフクラブ)が優勝されました。

滋賀退職者連合第１５回グラウンドゴルフ大会結果

	順 位	氏　名	実打数	ホールインワン数	得 点	所 属 名
男性の部	優 勝	岡 田 恭 彦	82	2	76	滋賀県退職教職員協議会
	2 位	角　靖 敏	83	2	77	JP労組退職者の会
	3 位	山 田　隆	84	1	81	NTT労組退職者の会
	4 位	日 高 孝 一	84	1	81	ダイハツ阜月会
	5 位	酒 田　郁	83	0	83	JAM滋賀シニアクラブ
女性の部	優 勝	加 藤　ヨリ子	89	1	86	UAゼンセンIKI･IKIライフクラブ
	2 位	大 矢 三千代	90	1	87	NTT労組退職者の会
	3 位	角　彰 子	90	0	90	JP労組退職者の会
	4 位	竹 村 いく子	94	0	94	全印刷退職者の会
	5 位	村 井 あつ子	97	0	97	ダイハツ阜月会

※得点が同数の場合は、①最小打数の多い順 ②年齢順　　ホールインワン数23本（19名）

男性の部 優勝　岡田恭彦 さん

女性の部 優勝　加藤ヨリ子 さん

いきいき元気に活動中！「新たなる活動」

ダイハツ皐月会滋賀支部　中山　康英

ダイハツ皐月会滋賀支部は、現在31年を迎え会員数780名のマンモス支部になりました。支部平均年齢73歳で最年長者は95歳です。

現在、幹事は31名です。機関紙等の配布は手配り460件、郵送関係は320件となり、郵送が年々増加傾向にあります。

昨年度は、コロナ感染の景況でイベントはほとんど中止となりましたが、感染予防対策を取りながら、グラウンドゴルフ、バスツァー、ゴルフコンペ、竹同好会、趣味の展示会、ボランテア活動等を実施しましたが、参加者はコロナ前と比べると322人で、例年の三分の一にとどまりました。

今後は、Withコロナに向けた取り組みが必要だと思っています。

これまでのイベントを見直し、次の点に留意し、新たなる活動をすすめます

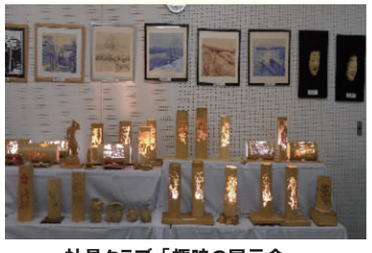
- 支部最大イベントのグラウンドゴルフは例年90～100名の参加が有りましたが人数を縮小し、50名規模で実施し、参加者にいきわたる景品で来た人に喜んでもらう。
- ゴルフ同好会はラウンド終了後のパーティーをやめて、ハーフでの集計とし、帰りに景品を渡して密を避ける。
- 竹同好会は通常の活動以外に土・日曜日に家族（孫）も体験出来る簡単な竹細工づくり教室を実施する。
- 地区ボランテア活動に参加する。今までは竹の伐採ボランティア活動に参加して来ましたが、新たに竹と遊ぼう会を小学生対象に実施していく。
- 健康ウオーキングの実施と社員クラブでのマシン使用の筋肉貯筋でトレーニング仲間と健康寿命のアップに向けて鍛える。
- バスツアーは近場で、友達、ペア、夫婦等での気軽に参加できる日帰りにする。
- 社員クラブの更なる活用⇒習い事（絵・書・音楽・革細工・PC勉強会・その他）を計画し、実施していく。
  健康管理の増進については　体力づくり、健康寿命の促進、認知症予防、介護等の講習会を計画し、実施していく。

昨年度の活動状況

これからも「元気で明るく楽しく」をモットーにして自分達に合った活動に向けて取り組みます！

グラウンドゴルフ受付

バスツアー彦根城


社員クラブ「趣味の展示会」

竜王地区　竹林伐採ボランテア参加

お店からの依頼を受けて展示会を実施

「竹と遊ぼう会」家族体験学習

ワイワイハイキング

ただいま筋トレ中

コラム

滋賀県退職教職員協議会
（滋賀退職者連合 幹事）
清水 達久

今なおコロナウイルスは、全国的に猛威を振るい感染者が急増し終息する気配がまったく見えてこない状況にあり、この難局をお互いの努力や協力で一歩一歩乗り越えていきたい。

3月16日には、「3.11東北震災」から11年目の今年に、またもや地震が起こり大きな被害が起きた。国・国民挙げての一日も早い復旧・復興を願わずにはおられない。

また今も続くロシアによるウクライナへの侵略戦争を一日も早く終わらせなければならない。

5月15日は沖縄復帰50周年、沖縄の言葉「ヌチドウタカラ」とは「命こそ宝」ということ、リアルタイムで戦争が起こっている今、「命どう宝」の意味を問い直したい。

今から10年少し前、甲南町「忍の里プララ」にて「いのちのうたコンサート」として歌手の砂川恵理歌さんが12月11日に「一粒の種」を熱唱。この歌の作詞者・作曲者・歌手全て沖縄県宮古島市の人達で、作曲者は下地勇さん、作詞者は高橋尚子さん。高橋さんは看護師、2002年12月、突然卵巣が破裂、手術、生きていられる喜びと感謝で号泣、再びを生きる思いで職場復帰し、末期がんで闘病中のNさんを看護。Nさんの穏やかな、死さえ受容しているようなその姿は崇高にさえ感じられた。ところがある日、高橋さんの目に飛び込んできたのは、見たこともない大粒の涙で、逝く哀しみの淵で嘆くNさんの姿だった。薄れる意識の中、さらけ出された魂から滴った最後の言葉は、「一粒の種でいい、生きていたい」だった。高橋さんは、「私が種を播こう」と心の中で約束をし、2004年に「一粒の種」という詩が綴られた。それが作曲者・歌手へとリレーされ、「種蒔きの輪」が今日に至るまで大きく広がっている。